

# 平成 22 年度事業報告

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

## <総務関係>

### 1. 理事会・評議員会の開催

平成 22 年度 常務理事会

月日：5 月 21 日

場所：日本出版クラブ会館

議題：「平成 21 年度事業報告並びに決算報告案」、「平成 22 年度事業計画について」  
「任期満了に伴う評議員、役員の改選について」

第 44 回定例評議員会並びに第 89 回定例理事会

月日：5 月 26 日

場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 21 年度事業報告並びに 決算報告案、監査報告」  
第 2 号議案 「平成 22 年度事業計画について」  
第 3 号議案 「任期満了に伴う評議員、役員の改選について」

- ◆ 本改選をもって、小峰紀雄 副理事長（書協前理事長）、古屋文明 副理事長（取協前会長）、鴻巣道明 専務理事、亀井忠雄 常務理事（三省堂書店社長）、山崎厚男 常務理事（トーハン社長）、相賀昌宏 常務理事（小学館社長）、並河 良 理事（光文社前社長）が退任され、新たに相賀昌宏 副理事長（書協理事長）、山崎厚男 副理事長（取協会長）、矢作孝志 専務理事、古屋文明 常務理事（日本出版販売社長）、近藤敏貴 常務理事（トーハン専務取締役）、高橋基陽 理事（光文社社長）、安西浩和 理事（日本出版販売常務取締役）、船坂良雄 理事（日書連理事）が就任しました。

※役職は当時。以下同。



## 第 90 回定例理事会

月日：8月19日

場所：日本出版クラブ会館

議題：第1号議案 「常務理事の互選、一部評議員の交代」

◆ 山下秀樹 理事並びに船坂良雄 理事が常務理事に互選され、船坂常務理事が運営担当に就任いたしました。

◆ 馬場章好 評議員→谷川直人 評議員（トーハン取締役）

渡邊幸三 評議員→石川博史 評議員（日本公文教育研究会取締役）

第2号議案 「鴻巣前専務理事の退職金、矢作専務理事の報酬について」

第3号議案 「JPIC 運営体制について」

第4号議案 「平成22年度事業進捗状況の報告と今後の計画」

その他

「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」報告についての解説と最新動向（経済産業省メディア・コンテンツ課信谷課長）

## 運営委員会

月日：10月7日

場所：日本出版クラブ会館

議題：「デジタル・ネットワーク社会における書店活性化策委員会（仮称）の設置について」、「財務体質の健全化について」、「公益法人改革への対応について」

## 第45回定例評議員会並びに第91回定例理事会

月日：11月10日

場所：山の上ホテル

議題：第1号議案 「平成22年度上半期事業報告並びに収支報告について」

第2号議案 「総務省 新ICT利活用サービス創出支援事業への提案について」

第3号議案 「平成22年度下半期事業について」

第4号議案 「公益法人改革への対応について」

第5号議案 「役員の一部交代」

◆ 近藤敏貴 常務理事→阿部好美 常務理事（トーハン専務取締役）

坂上 弘 理事→篠 弘 理事（日本文藝家協会理事長）

井上俊夫 評議員→筒井正博 評議員（神奈川組合理事長）

運営委員会

月日：2月14日

場所：日本出版クラブ会館

議題：「平成22年度決算見通し」「平成23年度事業計画案並びに予算案骨子」  
「総務省 新ICT利活用関連事業と経産省 書籍等のデジタル化事業の公募」

第46回定例評議員会並びに第92回定例理事会

月日：3月24日

場所：日本出版クラブ会館

議題：第1号議案 「平成22年度決算見込」

第2号議案 「平成23年度事業計画案並びに予算案について」

第3号議案 「一般財団法人移行への対応について」

第4号議案 「理事・評議員の一部交代」

◆ 松原 治 常務理事→高井昌史 常務理事（紀伊國屋書店社長）

濱田博信 常務理事→野間省伸 常務理事（講談社副社長）

坂本喜淑 評議員→伊藤 聡 評議員（日本地図共販社長）

林 保 評議員→森岡忠弘 評議員（栗田出版販売執行役員書籍仕入部長）

牧野伸一 評議員→土屋正三 評議員（太洋社取締役仕入本部長）

第5号議案 「総務省、経済産業省のデジタル関連事業について」

## 事業報告

### 1. 生涯学習事業

#### 第 18 期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、随時カリキュラムを更新し、常に「本」「読書」の魅力を掘り下げる多彩な講座内容をご提供しています。

新カリキュラムとなって 4 年目の今年も引き続き、監修にはライター・書評家の永江朗氏、校長には読書家として知られる俳優の児玉清氏を迎えました。執筆・講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご協力いただきました。新たに古書通信社の樽見博編集長、全国に一箱古本市を普及させた仕掛け人の南陀楼綾繁氏に登場いただき、さらに魅力的な講座とすることができました。



オプションツアーや希望者のみの装丁実習は、いずれも定員以上の申込があり、受講生の期待の高さがうかがえました。

平成 22 年 7 月から 23 年 1 月まで、7 ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、1 月 31 日に行われた修了式では、児玉清氏の記念講演が行われ、児玉“校長”が、「読書がもたらす想像力こそ大事」と題して、読書の魅力や自身の読書体験について語りました。

修了式では、来賓の日本出版取次協会 山崎厚男会長から激励の祝辞を賜り、続く懇親茶話会では、日本児童図書出版協会 竹下晴信会長から修了生の今後の活躍に期待の言葉を賜りました。

第 18 期の修了生は 98 名、北海道から熊本県までの全国各地に、新たな JPIC 読書アドバイザーが誕生し、修了生は累計約 1,800 名となりました。(受講料 : 一般 58,000 円 JPIC 賛助会員 53,000 円)



<スクーリング スケジュール一覧>

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	2010年 7月30日(金)	開講式 総論 JPIC概要 アドバイザー活動 グループディスカッション	永江 朗 中泉 淳 越高一夫 関口季三江
スクーリング②	2010年 7月31日(土)	読書の歴史 本の情報	津野海太郎 永江 朗
オプションツアー	2010年 8月1日(日)	講師引率による見学会(青山ブックセンター、嶋田洋書) 見学会(印刷博物館、丸善丸ノ内本店)	永江 朗
オプションツアー	2010年 9月3日(金)	見学会(国立国会図書館、千代田図書館、八木書店、ブックハウス神保町、神保町案内所)	
スクーリング③	2010年 9月4日(土)	雑誌編集 印刷の歴史と現在 古書の世界の奥深さ グループディスカッション	雨宮秀樹 中西秀彦 樽見博
スクーリング④	2010年 9月5日(日)	編集者が語る本ができるまで 出版流通 書評書評の読み方書き方	松田哲夫 永江 朗 豊崎由美
オプションツアー	2010年0 10月29日(金)	見学会(国際子ども図書館)	
スクーリング⑤	2010年 10月30日(土)	身近な古本の楽しみ方 図書館の役割、国内外の図書館の具体例 児童文学とは グループディスカッション	岡崎武志 大串夏身 今江祥智
スクーリング⑥	2010年 10月31日(日)	本のつくりや装丁について 装丁実習(希望者のみ)	岡本幸治
スクーリング⑦	2011年 1月30日(日)	読者はどう変わったか 乳幼児～児童期の読書傾向 グループディスカッション	南陀楼綾繁 佐々木宏子
スクーリング⑧	2011年 1月31日(月)	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 児玉 清

※スクーリング毎に10～20人ずつ「本のはなし」を実施。

<第18期受講生 属性一覧>

男女計	男性	女性
100	9	91

年代別	20代	30代	40代	50代	60代
100	16	13	28	29	14

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	1	3	63	7	0	8	10	1	2	5	0

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	取次会社	公務員
	28	5	7	6	2	1
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	21	3	6	1	2	42

### 「JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)」の活動支援

平成5年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、平成22年度末で約1,800名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC)」を組織して、活発に活動しています。平成21年11月には、読書推進運動協議会創立50周年を記念した「野間読書推進特別賞」を受賞しました。

修了生の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」「会員用ホームページでの情報交換」、JPICによせられる「各種団体開催の読みきかせ講習会の講師への対応」など、多岐にわたります。全国には地域支部が13支部あり、交流しています。

JPICとしてもさらにJRACの活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」での読みきかせ実践講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなし広場」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、おはなし会の読み手を依頼しています。

また、『この本読んで!』では毎号、JRACメンバーが「おはなし会プログラム紹介」を執筆し、読者から人気のコーナーとなっています。

(JRAC 会員：625名、22年度末現在)



## 読書サポーター講習会

子どもの本を通じた国際理解を目的に活動する日本国際児童図書評議会と共催で、「読書サポーター講習会」を開催いたしました。絵本作家だけでなく、児童文学作家にも登場いただき、魅力的な作品を子どもたちに届ける手法を講習しました。併せて海外の児童図書展での入賞作品を展示し、日本で未翻訳の優れた作品を紹介しました。



(実施：8ヶ所 参加者：547名、参加費：2,000円)

主催：日本国際児童図書評議会 (JBBY)、共催：JPIC

	日程	開催地	会場	特別講師講師	申込者数	参加者数
1	8月21日	長崎市	長崎商工会議所	木坂涼、野坂悦子	66	60
2	8月22日	新潟市	ガレソンホール	駒形克己	53	41
3	9月25日	大阪市	大阪国際会議場	木坂涼、野坂悦子	169	126
4	10月11日	山口市	山口商工会議所	駒形克己	38	35
5	11月14日	札幌市	さっぽろ芸文館	富安陽子	87	75
6	12月12日	名古屋市	名古屋国際会議場	富安陽子	107	77
7	2月27日	新宿区	研究社英語センター	高島 純	102	70
8	3月5日	長野市	長野県松本文化会館	長野ヒデ子	67	63
合計					689	547

※上記の他、8月18日・19日、大分県にて「第11回 読みきかせサポーター講習会」を開催しました。(共催：大分県学校生活協同組合、JPIC。2000年より継続)

## 読みきかせサポーター実践講座～ステップアップ編

21年度から、読みきかせ活動の経験者を対象にスキルアップのための講座を開催しています。講義とグループディスカッションを行い、地域でボランティアをするための心構え、おはなし会の運営方法、子どもの読書推進の現状などを幅広く学び、地域の読書推進活動の核となる人材を育成するための講座です(実施：4会場、251名の参加、内学生13名。参加費3,000円)。2ヵ年で全国11会場にて開催いたしました。

平成22年度末で「サポーター講習会」は累計262回、延べ参加者25,375名となりました(「JPIC読みきかせサポーター講習会」、「読書サポーター講習会」、「読みきかせサポーター実践講座～ステップアップ編」を含みます)。



■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	申込者数	参加者数
1	8月29日	金沢市	金沢市文化ホール	47	37
2	10月3日	高松市	高松テルサ	53	39
3	10月16日	広島市	アステールプラザ	53	46
4	11月17日	新宿区	日本出版クラブ会館	133	49
合 計				286	171

### ヤングアダルト文学講座

小学校高学年から中高生に向けて読書推進を行っている方を対象に、児童文学者による基調講演、JPIC 読書アドバイザーによるブックトーク講習と実演を交えて、講習会を行いました。中高生の参加も呼びかけました。（実施：2会場、135名の参加、内学生5名。参加費1,000円、学生無料）



■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	基調講演	申込者数	参加者数
1	9月11日	秋田市	生涯学習センター分館	清水眞砂子氏	89	75
2	11月7日	横浜市	産業振興センター	さくまゆみこ氏	90	60
合 計					179	135

※平成17年度より開催し、累計24回、延べ参加者2,348名となりました。

### 中高生のための読書講座

若い世代の読書意欲喚起をねらいとして、中学生、高校生を対象とした読書講座を開催しました。

①「オーサー・ビジット校外編」（共催：朝日新聞社）

21年度より実施している「オーサー・ビジット校外編」では、中高生による読書会と作家のトークを今年度4会場にて行いました。事前に課題（指定図書を読む、POPを作るなど）を与えることで、初対面の参加者たちもすぐに本の話で盛り上がり、作家への質問も途切れることなく続きました。

7月4日（日）東京・ブックファースト新宿店／万城目学氏 27名

9月5日（日）横浜・有隣堂営業本部／上橋菜穂子氏 42名

11月21日（日）福岡・アートリエ／小川洋子氏 24名 [共催：ブックオカ実行委員会]

2月6日（日）京都・イオンモール KYOTO 店 Koto ホール／はやみねかおる氏 80名



②「新・世界文学入門 沼野教授と読む日本の世界、世界の日本」（共催：光文社、協賛：東京大学現代文芸論研究室）

東京大学の沼野充義教授をホストに、文学の第一線で活躍する方々をお招きし、若い読者に世界文学の現在を紹介する連続対談企画を21年度より開催し、その第5回を行いました。対談には、翻訳家で東京外国語大学長の亀山郁夫氏を迎え、シリーズ最多の997名ものお申込がありました。参加384名。

5月2日（日）東京・東京国立博物館平成館大講堂

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

## 2. 調査研究事業

### ①総務省委託事業平成 22 年度「新 ICT 利活用サービス創出支援事業」

JPIC が提案した「電子出版の流通促進のための情報共有クラウド構築と書店店頭での同システムの活用施策」プロジェクトが平成 22 年度総務省「新 ICT 利活用サービス創出支援事業（電子出版の環境整備）」に採択されました（実施期間 平成 22 年度 11 月 17 日～平成 23 年度 3 月 31 日。共同提案／日本書店商業組合連合会、社団法人日本出版取次協会、社団法人日本書籍出版協会、社団法人日本雑誌協会、株式会社博報堂、プライマル株式会社）。概要と成果報告書は JPIC ホームページにて公開しています。

### ②「20 歳の 20 冊」

自治体から新成人に本を贈る事業です。21 年度に茨城県大子町、千葉県袖ヶ浦市、鳥取県日吉津村、島根県東出雲町の 4 自治体でのモデル実施を経て、22 年度は本実施 1 回目を行いました。



8 月実施の成人式で 4 自治体、1 月実施の成人式で 24 自治体に採用され、合計 28 自治体 3,548 名の新成人が対象となりました。

児玉清さん、杏さん、石原千秋さん、金原瑞人さん、北上次郎さん、永江朗さんら読書通で著名人の選者 6 名が選んだ 20 冊を選評とともにリスト化し、うち 1 冊を新成人自身が選ぶ仕組みです。自治体は書籍を定価で購入し、書籍の納品は地元の書店組合または組合加盟店が行います。読書習慣がない 20 歳にも好評で、読書推進の効果が見られました。

成人式実施日	自治体名	新成人数
8 月 15 日	長野県 辰野町平出地区	40 名
	長野県 南相木村	9 名
	鳥取県 日野町	30 名
	鳥取県 伯耆町	149 名
1 月 2 日	岐阜県 高山市朝日支所	27 名
	山梨県 丹波山村	6 名
	鹿児島県 喜界町	100 名
1 月 3 日	奈良県 十津川村	35 名
	鳥取県 日吉津村	35 名
	鳥取県 八頭町	254 名
	島根県 邑南町	130 名
	高知県 越知町	48 名
	高知県 田野町	40 名
1 月 5 日	北海道 厚沢部町	43 名

	岩手県	普代村	40名
	宮崎県	新富町	200名
1月9日	北海道	壮瞥町	29名
	北海道	真狩村	25名
	福島県	大熊町	150名
	茨城県	大子町	225名
	千葉県	袖ヶ浦市	630名
	岐阜県	恵那市	610名
	岐阜県	白川町	120名
	福井県	おおい町	99名
	島根県	東出雲町	130名
	高知県	大豊町	34名
	高知県	室戸市	170名
	長崎県	東彼杵町	140名
	合計	28自治体	

実施自治体のひとつ、岐阜県恵那市では、今年の成人式のテーマを「読書のすすめ」とし、プレゼントの対象書籍を「20歳の20冊」の20冊に加え、地元で独自に選んだ一冊を加えた「20歳の20冊+1冊」を実施するとともに、タレントの相田翔子さん（元 Wink）による絵本の読みきかせや詩の朗読も行われました。

23年度には実施50自治体を目標とし、継続して若い読者層への啓発に務めます。

### ③ブックリボン～本を送ろう。笑顔をあげよう。～

読者から読み終わった本を寄贈いただき、読書環境の整わない施設に橋渡しをする事業です。21年度のプレ実施を経て、22年度は東京都の特別協力を得て、広範囲に実施することができました。

10月23日～11月30日までの約5週間で、集った図書は計107,897冊です。10月23～24日には、「国民読書年記念祭典」の一環として、11月3日に



は東京都主催の「すてきな言葉と出会う祭典」にてPR及び寄贈本の受付を行いました。中には、家族で100冊以上の絵本をお持ちくださった方や、心のこもったお便りを添えてくださった方があり、次の読者に届きますようにとの願いをしっかりと受け取りました。

図書はクリーニングし、矯正施設、児童館、児童福祉施設、海外の日本人文庫、海外日本センター、病児療養支援施設、離島に寄贈いたしました。寄贈にあたっては、施設を管轄する法務省、厚労省、JICAなどの協力のもと、適切な施設を募集いたしました（図書館、学校は寄贈先の対象といたしません）。また、沖縄県の離島である伊江村では、村を挙げての読書推進を進めたいとの希望を受け、約1万冊を寄贈いたしました。村内の施設に分配

され、管理運営は伊江村により行われます。

22年度は、計246施設にお届けすることができました。



#### ④大学読書人大賞 協力

若い世代と「読書の魅力を共有したい」、大学生に「本を真中にディスカッションしてほしい」との考えから、フランスの「高校生ゴンクール賞」を参考に19年度よりスタートした「大学読書人大賞」が第4回を迎えました。22年度も応援、共催をいたしました。

企画・実施のほとんどは、大学文藝部（サークル）に所属する有志大学生で作る大学読書人大賞実行委員会が行っています。

4月25日には明治大学リバティータワーにて、第3回の公開討論会を開催いたしました。約150名の観客が見守る中、大学生による真剣な討論が交わされました。推薦サークル代表者が自身の推薦する作品以外に順位をつけ、順位を点数化して集計した結果、第3回大学読書人大賞は森見登美彦著『夜は短し歩けよ乙女』（角川書店）に決定いたしました。

6月3日には作者の森見登美彦氏を迎えての贈賞式を執り行いました。190名の学生が森見氏を取り囲み、作者との交流を楽しみました。同作品は、本年、大学生協で最も売れた本になったとのこと。



第4回大賞の選定にあたっては、まず全国の大学生文芸サークルが各々5作品を選びました（参加サークルは53）。投票数上位6作品を候補作品として、改めて参加サークルが1作品を選んで推薦文を書き、サイト上の推薦文の中から優秀作品を選びます。その優秀推薦文を書いた6サークルが集い、公開討論会にて大賞が決定されます。公開討論会は23年5月15日に研究社英語センター会議室にて開催されます。

また、1月13日に各候補作品の編集者を招き、大学生たちとの懇談会を開催いたしました。約80名の大学生が参加し、各編集者と積極的に意見を交わしました。

企画・実施内容の詳細は、<http://www.jp-pic.or.jp/dokushojin/>にて公開しています。また、大学生実行委員によるブログとツイッターも更新中です。



## 国民読書年記念事業

### ①マクベス(国立国会図書館と共催)

国立国会図書館と「日本語と翻訳—シェイクスピア マクベス朗読と作品解説」を国会図書館東京本館、関西館にて開催いたしました。マクベスの朗読劇と開設、国会図書館の貴重資料の展示が行われました。国立国会図書館が国民読書年を記念して開催した事業ですが、来場者の約半数が国会図書館に初めての来館でした。

6月17日(木) 東京・国立国会図書館東京本館 292名

6月19日(土) 京都・国立国会図書館関西館 206名

### ②「本で街を元気に！」

一箱古本市を象徴として、本を通じた街づくり・町おこしを行う地域が増えていることを受け、情報共有のためのシンポジウムを行いました。第1回の東京会場では、既に地域に定着している「BOOKUOKA(福岡)」、「BOOKMARK NAGOYA(名古屋)」、「BOOKBOOK Sendai(仙台)」、「小布施一箱古本市(小布施)」の代表者が集い、今後の展望と可能性について語り合いました。続く金沢と札幌では、シンポジウムと連動して一箱古本市が開催され、以降は地元実行委員会の主催で続けられています。

5月3日(月・祝) 東京・「上野の森 親子フェスタ」内 67名

8月28日(土) 金沢・近江町プラザ 45名

11月13日(土) 札幌・まち×アートセンターさっぽろ 60名

## 3. 情報提供事業

### 「JPIC NEWS LETTER」の発行

賛助会員の皆様に毎月1回、財団事業の報告のため「JPIC NEWS LETTER」を発行しています。掲載内容についてのお問い合わせ、財団運営に対するアドバイスをいただくなど財団事業へ反映させています。22年度中に9号を発行し、通巻121号となりました。

### JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成10年2月よりホームページ(<http://www.jp-pic.or.jp/>)を公開しています。

平成14年8月に全面リニューアルして公開し、全国のボランティアの方々との関係強化を図り情報の提供を行っています。JPICが主催・協力する各地の講習会・説明会などの案内も掲載しているため、ホームページ経由で各種事業に参加されるボランティアも増えています。また、「JPIC 読書推進メールマガジン」を配信し、全国のボランティアに講習会やイベント情報を配信しています(メルマガ読者:7,600名)。

## 季刊誌『この本読んで！』の発行

JPICの読書推進運動への協力者との情報交換・情報提供のため、季刊誌「この本読んで！」を平成13年11月に創刊（事業協力：博報堂）。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、「新刊絵本の紹介」や「絵本作家へのインタビュー」、「〈JPIC 読書アドバイザー〉おすすめ・おはなし会プログラム」など、多彩な内容を見やすいカラー誌面で構成しています。第20号（平成18年8月号）より表紙を絵本作家の書き下ろしとし、第35号からは、ロゴデザイン、表紙デザイン、紙質など、総合的にリニューアルしました。

公式ホームページ「えほん大好き」<http://ehon.webdoku.jp>は平成22年8月に終了し、JPICホームページへ一部移行しました。

読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読が増えており、10,000部発行しています。

発行形態	発行：年4回（5月、8月、11月、2月） 形態：A4変形・88ページ	
掲載記事	35号 10年夏号	特集 なぜ、読みきかせするの？ 特集 絵本で世界をひとまわり—フランス編— こんにちは！絵本作家さん いわむらかずお、田中清代
	36号 10年秋号	特集 マザーグースをひもとく 特集 絵本で世界をひとまわり—イタリア編— こんにちは！絵本作家さん 田畑精一
	37号 10年冬号	特集 太田大八さん92歳、いまでも現役！ 特集 絵本で世界をひとまわり—ロシア編— こんにちは！絵本作家さん ましませつこ
	38号 11年春号	特集 0～2歳の赤ちゃんと楽しむ絵本 特集 絵本で世界をひとまわり—オランダ編— 追悼 佐野洋子さん
購読料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期購読（4冊）：4,200円（送料無料、税込）</li> <li>・バックナンバー：1,200円（送料・税込）</li> </ul>	



35号(夏)



36号(秋)



37号(冬)



38号(春)

## 4. 交流協力事業

### 地域読書環境整備事業

JPIC では、書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、自治体のモデル読書施設開設・運営に協力しています。

大分県耶馬溪町「わかば」（平成 4 年 5 月開設・平成 20 年 3 月 31 日閉店）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成 4 年 10 月開設、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成 5 年 10 月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成 7 年 2 月開設）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成 8 年 7 月開設、開設時は北御牧村）。

5 地域で開設し、4 施設が地元の読書推進運動の中核的な役割を担いながら運営を継続しています。いくつかの施設では、市町村合併により同一自治体内に書店や図書館が存在する状況となりましたが、施設を中心に読書推進関連イベントを開催するなど、地域住民に親しまれながら存続しています。JPIC でも、イベントの企画や研修会の開催協力を行っています。

しかし、3 月 11 日に発生した東日本大震災とそれに伴う津波災害により、「ブックワールド椿」は、全壊被害を受け、残念ながら、大船渡市は閉鎖を決定しました。

また、大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故により、「ほんの森いいたて」は困難な環境のなか営業を続けています。（年度の明けた 5 月には、計画的避難区域に指定され、運営環境はさらに厳しくなりました）。



## 読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて業界各社が取り組む各事業（①全国訪問おはなし隊 ②おはなしマラソン ③取協読書推進事業「読みきかせ会」 ④生命保険協会 読みきかせによる“家族のきずな”推進活動）に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地元の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせ・ブックトークを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

### ①全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、平成 22 年度は 6 巡目を走行中です。全国の保育園、幼稚園、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせや紙芝居を通じて、子どもたちに本との出会いを提供しています。23 年 9 月には 7 巡目に入る予定です。（22 年度：1,165 会場 累計実績：13,431 会場）

### ②おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。（累計実績：642 書店）

### ③取協読書推進事業「読みきかせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読みきかせ会の開催」を実施しました。平成 12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭の活性化・増売」「第 4 土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読みきかせ会を開催しました。（期間：平成 22 年 12 月 4 日～平成 23 年 2 月 5 日の毎週土曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：49 書店）

### ④生命保険協会 読みきかせによる“家族のきずな”推進活動

生命保険協会は、読みきかせを通じた“家族のきずな”推進活動を展開しています（平成 20 年度より 3 ヶ年計画）。一般公募による絵本コンテスト、児童施設等への絵本寄贈を行っています。

JPIC は絵本コンテストの審査協力、成果物として、コンテスト大賞受賞作品の絵本、「家族のきずな」を深める絵本の紹介や遊びを収録した副読本の編集協力を行いました。

## 第 11 回「上野の森 親子フェスタ」の開催

「2000 年子ども読書年」を記念して開催した「上野の森 子どもフェスタ」、翌年から「上野の森 親子フェスタ」として拡充開催しています。ゴールデンウィークの上野公園の恒例行事として定着してきた本事業には、今年も多くの人々が詰め掛けました。（開催：平成 22 年 5 月 3 日～5 日、子どもの読書推進会議と共催）

- 協賛：日本公文教育研究会
- 後援：経済産業省、文部科学省、厚生労働省、国立国会図書館国際子ども図書館、東京都教育委員会、台東区、読売新聞東京本社、文字・活字文化推進機構
- 協力：上野の山文化ゾーン連絡協議会、日本出版取次協会、日本国際児童図書評議会



上野恩賜公園中央噴水池周辺では 66 者の協力による「チャリティ・ブック・フェスティバル」が開催されました。3 日間晴天に恵まれ、全体では 3,041 万円の売り上げでした（概ね 20% 割引の読者謝恩価格）。

### ■ 出展社一覧 66 者（50 音順）

あかね書房	アスラン書房	いかだ社	一声社	いのちのこば社
今人舎	岩崎書店	絵本の家	えほんの杜	大月書店
偕成社	学習研究社	KIBABOOK	金の星社	くもん出版
佼成出版社	講談社	国土社	子どもの未来社	ゴブリン書房
小峰書店	朔北社	集英社	主婦の友社	小学館
瑞雲舎	鈴木出版	誠文堂新光社	世界文化社	大活字文化普及協会
大日本絵画	大日本図書	汐文社	帝国書院	童心社
徳間書店	ドン・ボスコ社	西村書店	農山漁村文化協会	博雅堂出版
PHP 研究所	BL 出版	ひさかたチャイルド	評論社	ビリケン出版
福音館書店	富山房	フレーベル館	文研出版	ベースボールマガジン
星の環会	ポプラ社	ほるぷ出版	ミネルヴァ書房	民衆社
UD 絵本センター	理論社	日本国際児童図書評議会 (JBBY)		YA 出版会
自然の会(全国農村教育協会ほか)	森の会(アリス館、クレヨンハウス、さ・え・ら書房、のら書店、文溪堂)			

また、同会場では常時、「全国訪問おはなし隊」（協力：講談社）キャラバンカー前特設会場やイベントテントにて出展各社協力によるおはなし会や紙芝居、出展社ブースでは絵本作家のサイン会が行われました。

講演会も、東京国立博物館平成館大講堂・小講堂を会場に 12 講演が行われ、約 2,500 名の親子・読者に読書の魅力やおはなしの楽しさを伝えました。



■講演会（子どもゆめ基金助成活動）

※平成館 大講堂(定員 380 名)

日	タイトル	出演者(敬称略)	申込数	入場数
2 日 PM	現代日本とドストエフスキー	亀山郁夫(東京外国語大学学長) 沼野充義(東京大学教授)	997	387
3 日 AM	駄目な子なんていない —落ちこぼれを作らない方法教えます—	横峯吉文(通山保育園理事長)	538	267
3 日 PM	歌ありトークあり 絵本と童話のおいしい話	きむらゆういち(絵本作家) とりごえまり、マーチン古池	769	373
4 日 AM	おぐまこうじ絵本ライブ『カッパとあそぼう!』	おぐまこうじ(絵本作家) カッパくんファミリー	829	327
4 日 PM	藤田浩子のおはなしの世界へようこそ!	藤田浩子(おはなしお婆さん)	702	396
5 日 AM	対談 絵本づくりの歩みと作家との出会い	今江祥智(児童文学者) 松居直(福音館書店相談役)	496	323
5 日 PM	家庭でできる読書のいろは —読解力が子どもを育む	中島克治(麻布学園教諭)	459	205

※平成館 小講堂(定員 60 名)

3 日 AM	触れて楽しむユニバーサルデザイン絵本	Mac-koba、大内進、福本正幸	64	30
3 日 PM	本で街を元気に! “一箱古本市”が繋ぐ街と仲間のネットワーク	南陀楼綾繁(ライター)	69	67
4 日 PM	武田美穂の魅力がいっぱいおはなし会	武田美穂(絵本作家)	358	48
5 日 AM	本を読んで登場人物と仲良くなろう!	芳賀優子(NHK ラジオキャスター、弱視者)	60	26
5 日 PM	絵本作家 礧みゆき&オトロジー お話ライブ	礧みゆき(絵本作家) オトロジー(アーティスト)	164	43
計			5,505	2,492

## 「21世紀活字文化プロジェクト」への協力

読売新聞社が取り組んでいる「21世紀活字文化プロジェクト」は、思考力や想像力を育む本や新聞などの活字文化の振興を図るものです。

同プロジェクトの一環として、平成15年より家庭での読みきかせを普及させるため、「お父さんとお母さんの読みきかせ教室」を行っています。22年度には8月に第一生命本社において、佐藤涼子さんによるブックトークを行いました。



## 「スミセイおはなし広場」への協力

公益財団法人住友生命健康財団は、平成13年度より、読書をとおした子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出会う機会をつくる「スミセイおはなし広場」を実施しています。

その一環である「おはなし広場キャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジナル絵本をプレゼントし、大型絵本や紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読みきかせサークルをコーディネートしておはなし会を開催。保護者や地域の方のご参加も見られ、家族・地域間のふれあいのきっかけをつくる役割も担っています。

22年度は、5地域（6月栃木県宇都宮市周辺、9月秋田県秋田市周辺、10月東京都台東区周辺、11月高知県高知市周辺、1月福井県福井市周辺）で開催し、12,230名の園児が参加しました（22年度実施：131施設、累計実績：1,204施設）。

## 赤ちゃん本舗「赤ちゃん和妈妈のおはなし会」への協力

育児用品などの販売を手がける「赤ちゃん本舗」は、家庭でのコミュニケーションの発展と読書推進を目的として、店舗内のスペースを利用し、乳児・幼児・保護者を対象とした「赤ちゃん和妈妈のおはなし会」を実施しています。おはなし会を開催する店舗に、JPIC読書アドバイザーやJPIC読みきかせサポーターをコーディネートしています。（開催：毎月約25店舗）

## 第8回子どもの本まつり in とうきょう開催

国民読書年記念祭典の一環として、第8回「子どもの本まつり in とうきょう」を10月23日～24日、台東区・上野恩賜公園にて開催しました。

旧東京音楽学校奏楽堂前の広場では、JPIC読書アドバイザーによるおはなし会を1日4

回開催し、いずれの回も親子連れが楽しんでいました。

また、テント内では読み終わった本を児童養護施設などに寄贈する「ブックリボン」の受付をし、217冊の本を寄付していただきました。



国立科学博物館・日本館講堂では、下記の通り講演会が開催され、多くの親子が参加し、たいへん盛況でした。

日程	講演	出演	参加者数
10月24日 (日)	黒川みつひろさんと親子で楽しむお話会 「恐竜博士になろう！」	恐竜絵本作家 黒川みつひろ氏	165名 (応募355名)

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

## 「国際子どもの本の日記念 子どもの本の日フェスティバル」

（共催：文字・活字文化推進機構、JBBY）

3月12日～13日、品川区・ゲートシティ大崎にて予定しておりました「子どもの本フェスティバル」は東日本大震災の影響により、中止といたしました。

主催：日本国際児童図書評議会（JBBY）、JPIC、文字・活字文化推進機構

特別協力：生命保険協会、ゲートシティ大崎

## 「首都圏書店大商談会」への協力

出展社・取次会社・書店、3者のビジネス活性化に資するため、11月8日、日本出版クラブ会館を貸切り、第一回「首都圏書店大商談会」を開催しました。（出展社：80社、来場書店：196店、259名、商談成立：1,818件、40,841,309円）



実行委員会は、各取次書店会、東京都書店商業組合、取次各社で構成され、JPICは事務局として協力しました。

## 「本のまち・軽井沢」立ち上げ記念イベントへの協力

長野県軽井沢町は、古くから日本有数の保養地であり多くの文人・文化人に愛されてき



たという歴史的背景を活かし、本の文化を大切に守り育て、本の文化で彩られる「まち」にするための活動を平成 22 年より開始しました。立ち上げにあたり、10 月～12 月にかけて各種のイベントが開催されました。

JPIC は、10 月 16 日に軽井沢ユニオンチャーチにて開催した長田弘講演会「本は語りかけてくる」を主催し、レクチャー&リーディング「マクベス」(主催：光文社)に協力しました。



#### 「東京新聞子どもブックワールド」への協力

東京新聞は、読書推進を目的として 36 年前から「子どもブックワールド」に取り組んでいます。本とのふれあいを通じて子どもの想像力や発想力を育てる講演会やワークショップを開催し、JPIC が協力しています。

22 年度は、神保町ブックフェスティバル(22 年 10 月 30 日～31 日)と連動して絵本ワークショップを 2 回開催しました。

10 月 30 日には絵本作家いとうひろし氏の「見えないものを絵にしてみよう」を、主婦の友社会議室にて行いました(参加：小学生約 30 名)。翌 10 月 31 日には造本作家駒形克己氏の「ひとつがふたつ」を岩波ブックセンター会議室にて開催しました(参加：親子 40 組)。



## 朝日新聞社への協力

### ◆「オーサー・ビジット・プロジェクト」

「オーサー・ビジット」は、朝日新聞社の読書推進運動として、15年度よりスタートし、これまでに300を超す学校を訪問いたしました。

児童生徒に人気の作者が小・中・高校の教室を訪問し、作者自身の言葉による授業や対話により、読書意欲を喚起することを目的としています。



写真：吉永考宏

初年度から変わらず、たいへん多くの応募を全国の学校からいただいております、8年目の22年度は、20回のビジットに1,200件を超える応募がありました。

また、ベルマーク教育助成財団50周年を記念して、特別授業も5回開催いたしました。これは、ベルマーク運動に参加している学校に費用を一部負担いただいて訪問するもので、いままでは対応できなかった全校や学年全体に向けての授業を展開しました。

JPICは事務局として協力し、応募校の受付・登録や作家と学校の訪問スケジュール調整などの役割を担っています。

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
1	9月9日(木)	岩手県	盛岡市立大慈寺小学校	後藤道夫(科学ジャーナリスト)
2	9月10日(金)	広島県	広島県立尾道北高等学校	湯浅誠(社会運動家)
ベル	9月13日(月)	福岡県	福岡県福岡市立香椎浜小学校	増田明美(スポーツジャーナリスト)
4	10月12日(火)	山形県	山形県立米沢興譲館高校	海堂尊(作家)
ベル	10月14日(木)	熊本県	熊本大学附属小学校	池上彰(ジャーナリスト)
6	10月14日(木)	東京都	青山学院初等部	R・S・ガネット(児童文学作家)
7	10月15日(金)	愛知県	名古屋市立汐路中学校	梨屋アリエ(作家)
8	10月25日(月)	兵庫県	神戸市立科学技術高等学校	安藤忠雄(建築家)
9	11月5日(金)	神奈川県	山口県周防大島町立情島小中学校	谷川俊太郎(詩人)
10	11月10日(水)	宮崎県	島根県立出雲商業高校	誉田哲也(作家)
11	11月12日(金)	福井県	喜界町立志戸桶小学校	岩井俊雄 (メディアアーティスト・絵本作家)
12	11月16日(火)	奈良県	奈良県立山辺高等学校 山添分校	イッセー尾形(俳優)
13	11月18日(木)	静岡県	KTC中央高等学院 浜松キャンパス	綿矢りさ(小説家)
14	11月26日(金)	山梨県	身延町立原小学校	宮西達也(絵本作家)
まち	11月27日(土)	山梨県	三省堂書店 甲府岡島店	宮西達也(絵本作家)
16	12月2日(木)	栃木県	宇都宮市立古里中学校	あさのあつこ(作家)

17	12月3日(金)	宮崎県	宮崎県立宮崎北高等学校	福岡伸一(分子生物学者)
18	12月15日(水)	神奈川県	横浜市立中丸小学校	角野栄子(児童文学作家)
19	12月20日(月)	大阪府	大阪府立寝屋川高等学校 定時制	姜尚中(政治学者)
20	12月20日(月)	新潟県	新潟市立満日小学校	武田美穂(絵本作家)
21	1月14日(金)	茨城県	那珂市立本米崎小学校	荒井良二 (イラストレーター・絵本作家)
22	1月18日(火)	長崎県	長崎市立坂本小学校	青島広志(音楽家)
23	1月19日(水)	和歌山県	和歌山県立向陽中学校	原ゆたか(童話作家・画家)
24	1月24日(月)	東京都	江東区立香取小学校	工藤直子(詩人・童話作家)
25	1月31日(月)	千葉県	柏市立風早北部小学校	中川ひろたか(絵本作家)
ベル	2月9日(水)	兵庫県	西播朝鮮初中級学校	野口健(登山家)

※「まち」は「まちのオーサー・ビジット」として一般公募で開催したものです。

## ◆第1回どくしょ甲子園

「どくしょ甲子園」とは、高校生を対象にした読書会コンクールで、仲間と読書会を開いて発見した「一冊の本の魅力」を、文章とイラストで一枚の紙に表現した作品を応募してもらい、優秀作品を顕彰します。

第1回は、全国の高校生から200枚を超える応募をいただき、池上彰氏、あさのあつこ氏ら5名の選考委員が審査し、最優秀賞ほか6作品に賞を贈りました。

### ◆受賞校

#### □最優秀賞 (1点)

市川高(千葉県)・長谷部チーム 宮沢賢治著『よだかの星』

#### □優秀賞 (2点)

福井県立科学技術高・後藤チーム

岩崎夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』

市川高・酒井チーム 桜庭一樹著『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』

#### □奨励賞 (3点)

茨城県立土浦工業高・笠井チーム 宮沢賢治著『黄いろのトマト』

豊島岡女子学園高(東京都)・西村チーム 瀬尾まいこ著『幸福な食卓』

山口県立厚狭高・花本チーム 石田衣良著『4TEEN』

#### □特別奨励賞 (1点)

外国人の子どものための勉強会・林チーム 香山リカ著『10代のうちに考えておくこと』



第1回どくしょ甲子園 最優秀賞の作品





財団法人出版文化産業振興財団 理事・監事・顧問

理事長	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）[常勤]
副理事長	相賀昌宏（日本書籍出版協会理事長、小学館社長）
副理事長	上野 徹（日本雑誌協会理事長、文藝春秋会長）
副理事長	山崎厚男（日本出版取次協会会長、トーハン会長）
副理事長	大橋信夫（日本書店商業組合連合会会長、東京都）
専務理事	矢作孝志 [常勤]
常務理事	船坂良雄（日書連理事、東京都） ※運営担当
常務理事	高井昌史（紀伊國屋書店社長）
常務理事	古屋文明（日本出版販売社長）
常務理事	阿部好美（トーハン専務取締役）
常務理事	野間省伸（講談社副社長）
常務理事	山下秀樹（集英社社長）
理事	篠 弘（日本文藝家協会理事長）
理事	今野由梨（生活科学研究所所長）
理事	高橋基陽（光文社社長）
理事	神田高志（主婦の友社会長）
理事	南雲隆男（大阪屋社長）
理事	郷田照雄（栗田出版販売社長）
理事	風間賢一郎（中央社社長）
理事	河野隆史（日教販社長）

理 事	國 弘 晴 睦 (太洋社社長)	
理 事	安 西 浩 和 (日本出版販売常務取締役)	
理 事	小 城 武 彦 (丸善社長)	
理 事	松 信 裕 (有隣堂社長)	
理 事	柴 崎 繁 (日書連副会長、東京都)	
理 事	藤 原 直 (日書連副会長、宮城県)	
理 事	西 村 俊 男 (日書連副会長、新潟県)	以上 27 名
監 事	古 岡 秀 樹 (学研ホールディングス取締役)	
監 事	小 貫 邦 夫 (協和出版販売取締役)	
監 事	能 勢 正 幸 (公認会計士)	以上 3 名
顧 問	高 野 嗣 男 (須原屋会長)	
顧 問	上 瀧 博 正 (トーハン相談役)	以上 2 名

平成 23 年 3 月 31 日現在

財団法人出版文化産業振興財団 評議員

秋田 貞美 (秋田書店社長)  
柳 楽 節 雄 (家の光協会専務理事)  
井 上 一 夫 (岩波書店取締役)  
今 村 正 樹 (偕成社社長)  
関 谷 幸 一 (角川グループパブリッシング社長)  
高 納 勝 寿 (主婦と生活社社長)  
黒 田 茂 夫 (昭文社社長)  
佐 藤 隆 信 (新潮社社長)  
増 田 義 和 (実業之日本社社長)  
鈴 木 勤 (世界文化社会長)  
鈴 木 一 行 (大修館書店社長)  
鹿 谷 史 明 (ダイヤモンド社社長)  
岩 淵 徹 (徳間書店社長)  
遠 藤 絢 一 (NHK出版社長)  
伊藤富士男 (農山漁村文化協会専務理事)  
大 橋 一 弘 (博文館新社社長)  
坂 井 宏 先 (ポプラ社代表取締役)  
石 崎 孟 (マガジンハウス社長)

出版社：以上 18 名

齊藤隆巳（日本雑誌販売社長）  
伊藤 聡（日本地図共販社長）  
谷川直人（トーハン取締役）  
加藤真由美（トーハン図書館事業部長）  
金田 徹（日本出版販売書籍部長）  
岩本幸子（日本出版販売経営戦略室長）  
高橋 茂（大阪屋顧問）  
森岡忠弘（栗田出版販売執行役員書籍仕入部長）  
外山義朗（中央社専務取締役）  
山去賢二（日教販監査役）  
土屋正三（太洋社取締役仕入本部長）

取次会社：以上11名

水野兼太郎（日書連理事、埼玉県）  
筒井正博（日書連理事、神奈川県）  
古澤 隆（日書連理事、静岡県）  
田江泰彦（日書連理事、鳥取県）  
岡嶋成夫（日書連常任委員、東京都）  
小泉忠男（日書連常任委員、東京都）  
亀井忠雄（三省堂書店社長）

書店：以上7名

石川博史（公文教育研究会取締役）  
北島義斉（大日本印刷副社長）  
大湊 満（凸版印刷常務取締役）  
佐藤堅太郎（日本図書普及専務取締役）

一般：以上4名

以上40名

平成23年3月31日現在

## 平成 22 年度賛助会員 (274 社)

### 出版社

あかね書房	研究社	誠文堂新光社	日刊工業新聞社出版局
秋田書店	建帛社	税務研究会	二宮書店
朝日新聞出版	好学社	清流出版	日本ヴォーグ社
明日香出版社	恒星社厚生閣	世界思想社教学社	日本カメラ社
あすなる書房	佼成出版社	世界文化社	日本経済新聞出版社
アリス館	講談社	セブン&アイ出版	日本実業出版社
家の光協会	交通新聞社	セーラー出版	日本出版社
医学書院	交通タイムス社	創元社	日本スポーツ企画出版社
池田書店	光文社	増進堂・受験研究社	日本文芸社
一水社	小峰書店	第三文明社	ネオ書房
一声社	ゴルフダイジェスト社	大修館書店	農山漁村文化協会
1 万年堂出版	さ・え・ら書房	大日本図書	白水社
今人舎	作品社	ダイヤモンド社	白泉社
岩崎書店	産業図書	大洋図書	博文館新社
岩波書店	三省堂	大和出版	博友社
潮出版社	サンマーク出版	大和書房	ぴあ
NHK出版	産経総合研究所出版部経営書院	高橋書店	ピアソン桐原
旺文社	CQ出版	竹書房	PHP 研究所
大泉書店	実業之日本社	辰巳出版	ビーエル出版
宙出版	実務教育出版	淡交社	ひかりのくに
オーム社	集英社	筑摩書房	ひさかたチャイルド
オレンジページ	住宅新報社	地人書館	白夜書房
音楽之友社	主婦と生活社	チャイルド本社	評論社
偕成社	主婦の友社	中央経済社	フォレスト出版
海文堂出版	小学館	中央公論新社	福音館書店
海竜社	少年画報社	中経出版	扶桑社
学研ホールディングス	昭文社	中日新聞社広告局	双葉社
岳洋社	伸芽会	デアゴスティーニ・ジャパン	ブティック社
風間書房	新興出版社啓林館	東京書籍	プレジデント社
柏書房	新星出版社	東京創元社	フレーベル館
角川グループパブリッシング	新潮社	東京大学出版会	文英堂
角川春樹事務所	晋遊舎	東京地図出版	文化学園文化出版局
金子書房	鈴木出版	東京電機大学出版局	ぶんか社
河出書房新社	すばる舎	東京堂出版	文溪堂
かんき出版	星雲社	東京ニュース通信社	文芸社
教学研究社	聖教新聞社	童心社	文藝春秋
共立出版	静山社	東洋経済新報社	文理
近代映画社	青春出版社	徳間書店	平凡社
金の星社	西東社	ドレミ楽譜出版社	ベースボール・マガジン社
くもん出版	成美堂出版	南江堂	ベストセラーズ
	聖パウロ女子修道会	二玄社	ベレ出版

法学書院  
法研  
芳文社  
ポプラ社  
ほるぷ出版  
毎日新聞社出版局  
マガジンハウス  
マキノ出版  
みすず書房  
ミネルヴァ書房  
モーターマガジン社  
有斐閣  
吉川弘文館  
読売新聞東京本社  
リイド社  
リクルート  
流行発信  
理論社  
ワニマガジン社

#### 取次会社

大阪屋  
協和出版販売  
栗田出版販売  
鍬谷書店  
啓徳社  
三和図書  
太洋社  
たきやま  
中央社  
鉄道弘済会  
東京即売

トーハン  
日教販  
日本雑誌販売  
日本出版販売  
日本地図共販  
博文社  
明文図書  
**書店**  
旭屋書店  
今井書店グループ  
オリオン書房  
紀伊國屋書店  
金港堂  
三省堂書店  
須原屋  
積文館書店  
多田屋  
八文字屋  
丸善  
有隣堂  
リプロ

#### 書店組合

北海道書店商業組合  
青森県書店商業組合  
岩手県書店商業組合  
宮城県書店商業組合  
茨城県書店商業組合  
栃木県書店商業組合  
群馬県書店商業組合  
埼玉県書店商業組合

神奈川県書店商業組合  
愛知県書店商業組合  
三重県書店商業組合  
滋賀県書店商業組合  
京都府書店商業組合  
大阪府書店商業組合  
和歌山県書店商業組合  
兵庫県書店商業組合  
鳥取県書店商業組合  
広島県書店商業組合  
愛媛県書店商業組合  
福岡県書店商業組合  
佐賀県書店商業組合  
沖縄県書店商業組合

#### 教科書供給所

北海道教科書供給所  
群馬県教科書特約供給所  
神奈川県教科書販売  
愛知県教科用図書卸商業協同組合

#### 一般

愛知陸運  
お茶の水商事  
活字文化推進会議  
カンダコーポレーション  
共同印刷  
共立速記印刷  
近代美術  
工藤出版サービス  
三和  
出版共同流通

商工総合研究所  
生命保険協会  
大日本印刷  
太陽印刷工業  
手島梱包輸送  
天龍運輸  
電通  
図書館流通センター  
凸版印刷  
日販コンピュータテクノロジー  
日販物流サービス  
日本出版販売労働組合  
日本図書普及  
日本文化生涯学習振興会  
博報堂  
文化産業信用組合  
三井住友銀行神田支店  
三菱東京UFJ銀行神田支社  
八木書店  
山谷運送  
りそな銀行九段支店

#### 関係団体

日本児童図書出版協会  
出版健康保険組合  
日本出版取次協会  
日本書店商業組合連合会

#### 寄付

集英社  
トーハン  
日本出版販売